

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月17日現在

機関番号：11101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15907

研究課題名(和文)地域看護診断能力向上を目指した個人別態度構造分析(PAC分析)の導入

研究課題名(英文)Effect of using Analysis of Personal Attitude Construct for students to understand the community characteristics

研究代表者

北宮 千秋(KITAMIYA, CHIAKI)

弘前大学・保健学研究科・教授

研究者番号：10344582

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文):学生が地域特性を把握する手法として、個人別態度構造分析(PAC分析)を提案することが目的であった。PAC分析の地域特性把握のための連想刺激文を「あなたは何が共同体の特性を示していると思いますか」とした。学生は自由な連想を記述し、記述された内容の重要性を評価した。さらに、記述内容の類似性が1-10のスケールで評価された。クラスター分析の結果が学生に示され、学生はクラスターの分類を解釈した。学生はこの手法の過程でコミュニティに対する情報が整理されていた。その結果として例えば、住民がコミュニケーションの維持を大事にしていることに気がついていた。この手法はコミュニティアセスメントに役立つと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

行政で働く保健師にとって、住民の生活や健康上の顕在的・潜在的問題を把握し、具体的に解決する地域看護診断(地区診断)は重要な技術の一つとされる。保健師が保健事業を施策化するために行う地域看護診断は、1)既存資料(2次資料等)、2)目的にそった調査(社会踏査)、3)民俗学的な接近として地区視診、エスノグラフィを応用する1次資料を用いてアセスメントする。しかし、実際の保健師達は3)一次資料の質的データが未活用であり、現場において困難な作業と見なされていた。現場で十分に活用できていない住民の声や生活様式や価値観などを施策に反映していくことができる新たな手法を提案する。

研究成果の概要(英文):This research aimed to propose a technique for students to understand the community characteristics. Analysis of Personal Attitude Construct (PAC analysis) was used for data analysis. The question included in the PAC analysis was "What do you think are the characteristics of the community?" The students then described their free associations. Next, they evaluated the importance of the described content. In addition, the degrees of similarity of the descriptions were evaluated on a scale of 1-10. The results of the cluster analysis were shown to the students. Following this, the students named the clusters and confirmed the meaning. The students clarified the characteristics of the community through this analysis. For example, the students found that residents value the sustenance of communication. It was thought that this technique was useful for community assessment.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：地域診断 個人別態度構造分析 地域アセスメント 一次資料

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

行政で働く保健師にとって、住民の生活や健康上の顕在的・潜在的問題を把握し、具体的に解決する地域看護診断(地区診断)は重要な技術の一つである(金川 2011)。保健師が保健事業を施策化するためには、地域の実態や実情に添った計画立案が必須である。そのために地域を分析することが大切となる。

その分析過程を手法として確立させている地域看護診断は、1)既存資料(2次資料等) 2)目的にそった調査(社会踏査) 3)民俗学的な接近として地区視診、エスノグラフィーを応用する1次資料を用いてアセスメントされ、エスノグラフィーは顕在的な現象をより深く追求し、経験的に潜在している現象を説明するために、一連の過程と方法を用い知識を生み出し、看護を前進させる手段として役立つ(金川 2011)。学生はこれら資料の収集や活用を学び、看護実践に結びつけ、評価していく一連のプロセスを学習する。しかし、学生達が量的な既存資料に比べ、質的データである1次資料を活かせないことを経験してきた。実際の保健師達も個別データをどのように活かすかという質的データが未活用であり、現場において非日常的な業務であり困難な作業と見なされていた(佐伯ら 2001)。現場で十分に活用できていない住民の声や生活様式や価値観など、保健師が五感を使ってとらえた内容を事業へ反映していくことが求められるが、エスノグラフィーに代わるまたは補完する手法は未だ確立されていない。

2. 研究の目的

本研究は、地域看護診断を教育する際に個人別態度構造分析(Analysis of Personal Attitude Construct: PAC分析)の手法を用い、これまでの教育プログラムの弱点を補完する方法でプログラムを構築し、その効果を検証することを目的とする。地域看護診断の卒前教育において学生が経験する壁は、インタビューや地区踏査等により得られる1次資料をうまくアセスメントと施策形成に活かさないことである。この研究により、学生が漠然と捉えていた「地域の持つ多様な特性」をより明確な形で意識させることが可能となり、優れた看護診断能力持つ保健師を地域に送り出すことが期待できる。

3. 研究の方法

(1) 平成27年度: 地域看護診断(地域特性アセスメント)授業へのPAC分析導入

地域のイメージをPAC分析の手法により明確にする。学生が捉えた地域イメージを構築し、PAC分析の面接過程で解釈を行い、自らの地域イメージ構造を理解する。

1-1 PAC分析を導入した地域特性アセスメント演習の実践

- 対象となった学生に対して学生がとらえた出身自治体の地域のイメージを明らかにするため面接を行う。
- 面接では、連想刺激文を提示し、学生の自由に連想した言葉から、地域イメージをPAC分析の手法により構造化し、構造化されたクラスターに対し間主観的解釈を加える。
- 学生が行なったPAC分析内容についての感想および地域を捉えるという視点の理解にPAC分析が有効かどうかの評価を行う。

1-2 教育効果測定のための最適な帰結測定指標の選定

候補となった指標を用いて、1-1で行なった学生の取り組み前後で測定を行う。

(2) 平成28年度: PAC分析を活用した実習を实践 - 新しい地域看護診断アセスメント手法の活用

臨地実習での地区踏査や保健指導など実習プログラムの中で地域イメージを蓄積し、地域看護診断アセスメント過程において、PAC分析を实践する。PAC分析の結果を、実習自治体の地域看護診断に活かし、実習自治体において地域看護診断を発表し、政策提言を行う。

2-1 PAC分析を臨地実習で実践し、一次資料の一部とする。さらに既存資料(二次資料)と関連づけ総合的にアセスメントを行い、保健計画に活かす。

2-2 臨地実習後の学生のアセスメント力の測定(1-2の活用)

2-3 平成27年度プログラムを3年次学生に展開(1-1の継続実践)

(3) 平成29~30年度: (1)、(2)の教育実践を継続しデータの蓄積を行う。

教育プログラム実践し、その教育効果を検証する。

3-1 プログラム導入前後の学生のPACの実施データから教育効果を検証する。

4. 研究成果

(1) テーマ1 PAC分析を導入した地域特性アセスメント演習の実践

住民のもつ地域観をアセスメントする導入として、学生自身が長く住んだ地域をコアとした地域イメージを、学生と研究者の相互作用により構造化した。学生が自ら命名した地域イメージを表す主題をもとに、学生達の地域イメージの構成要素を明らかにすることを目的とした。

授業時間外に行う研究への参加に同意の得られたA大学3年次保健師学生16名を対象とし、個人別態度構造分析(以下、PAC分析)を行った。連想刺激文は「あなたが一番長く住んだ地域についてイメージしてください。あなたは生まれ育った地域をどのように感じていますか。」とした。主題を対象とし、質的に分析した。[]をカテゴリ、 をサブカテゴリとした。A大学院保健学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。

主題は 43 となり、対象者一人あたり、2~5 の主題が提示された。これらの主題から 5 カテゴリーが抽出された。[外と内の意識]は 他者からみえる地域 と 住むとみえる地域 の 2つのサブカテゴリから構成され、外からみえる一面との対比で住んで居るからこそ知ることができる地域を強く意識していた。[人とのつながり]は 住民同士の交流 と 言葉の壁 から構成され、住民同士の交流 による人のつながりや世代を超えたつながりとして説明され、外部からの転入によりその交流に溶け込めない 言葉の壁 を経験した。[健康課題]は 地域のもつ健康観 と 住民の年代構成とそこからみえる地域 で構成された。[人々の営みと環境]は、生活の基盤としての地域 と 風土と景色が作り出す地域、自然環境と結びついた生産性 から、[歴史と文化]は 食文化の好み と 歴史から根付いた文化 により構成された。

(2) テーマ 1・2 地域をとらえる視点を育てるプログラムの評価

住民のもつ地域観をアセスメントする導入として、学生自身が長く住んだ地域をコアとした地域イメージを、学生と研究者の面接による相互作用により構造化するプログラムを実施した。その一連のプロセスにおいて学生が感じた内容から、プログラム評価を行うことを目的とした。

授業時間外に行う研究への参加に同意の得られた A 大学 3 年次保健師学生 23 名を対象とし、個人別態度構造分析（以下、PAC 分析）を行った。このプログラム終了後に 400 字程度の感想の記載を求めた。この記載内容から相互作用により感じた要素を抽出し、その内容をデータとした。意味内容の類似によりデータをまとめ、カテゴリ化を行った。結果での表記は [] をカテゴリ、 をサブカテゴリとし、カテゴリ間の相互の関係性を記述した。A 大学院保健学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。

本プログラムを通して、[地域を深く考える]経験をしていた。このカテゴリを核として、内と外の地域 や 基本は地元 などの [地域をとらえる視点]があることに気がつき、[地域をとらえる楽しさの共有]をするが、一部 [地域をとらえきれてない残念さ]を感じていた。これらは [地域イメージの意見交換]を希望する思いにつながった。また、[地域を深く考える]ことにより、相互作用の過程において [思考が整理される]ことから、一方で [地域を捉え直す]ことにつながり、他方で [自分の内面を知る]こと、[地域イメージは自分とつながる]気づきを経験していた。さらに [地域を深く考える]ことで思いがけない [地域への肯定的・好意的感情]に気づいていた。[地域のとらえ方の個別性]や [地域イメージへ影響する環境]、[地域には必ずメリットとデメリットがある]ことへの気づき、さらに [地域を捉え直す]ことにより、[マイナスがあるから地域の力と魅力がある]との考えを得ていた。

学生は PAC 分析より普段考えていない [地域を深く考える]経験をした。地域のイメージを構造化しその意味を考える過程は、過去に経験した出来事と深く結びつき、[地域への肯定的・好意的感情]を自らに見出す過程でもあった。住むことで知る地域像がある 内と外の地域、住んだところを基本に物事を考える傾向 基本は地元 などを見出していた。住民が環境と折り合いながら、多様な思い（個別性）を持ち生活していることを理解することにつながったと考えられた。

(3) テーマ 2・3 プログラム導入前後の学生の PAC の実施データから教育効果の検証

保健師学生が自治体実習後にとらえた地域イメージの構造化過程での学び地方自治体での公衆衛生看護学実習後に、学生がとらえた地域イメージを構造化するプロセスで理解した学びを明らかにし、個人別態度構造分析（以下、PAC 分析）の応用可能性を検討することを目的とした。

A 大学 4 年次保健師選択学生 21 名（7 グループ）を対象とした。実習後に実習地のイメージを PAC 分析により構造化した。PAC 分析は、連想、連想文の重み付けと類似度を測定しクラスター分析を行う。クラスターごとに個別性と類似性を確認する。その過程で、研究者は対象者が自由にイメージを言語化できるように働きかけを行った。連想刺激文は「あなたたちが実習した地域はどのような地域でしたか」とした。これら一連の関わりの最後に、地域イメージを構造化したことで気づきや感想を求め、その内容を質的に分析した。実施時期は 2016 年～2017 年であった。学生は実習地に関する地域診断の作成を課されていた。[] をカテゴリ、 をサブカテゴリとした。A 大学大学院保健学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した。

学生の学びは 7 つのカテゴリで構成された。[情報不足の明確化]、[環境の重要性]、[人が織りなすことの重要性]、[コアの持つ力の再確認]、[地域に浸ることによる視点の変化]、[構造化された内容の活用]、[保健活動計画作成への活用]であった。[環境の重要性]は 環境から地域をとらえる視点 と 地区踏査の有効性 で構成された。また、[地域に浸ることによる視点の変化]は、健康へ関わる情報の多様性、生活をとらえることは視点の変化を生む、地域を知ることによる愛着形成、見方により弱みにも強みにもなる、プラスのイメージでとらえる、実習経験により見え方が変化 で構成された。実際に地域で活動を行うことにより、既存の資料からアセスメントした内容だけではつかみきれない地域の特性があり、構造化の過程を通して、様々な情報を取り入れてイメージが形成されていることに気がついていった。

地域イメージの構造化の過程において、既存資料からはつかみきれない地域の実情について感覚的にとらえていた。その内容を客観化する手法として PAC 分析を行うことは有効であった。

(4)テーマ2・3 プログラム導入前後の学生のPACの実施データから教育効果の検証を引き続き実施

対象とする学生数を増やすため、継続してプログラムを実践した。その結果、16名の学生に新たにプログラムを行った。公衆衛生看護学実習のプログラムを終了した学生は地域をどのようにとらえたのか、対象となった15グループ(39人)に個人別態度構造分析を実施した。その過程でのクラスターの主題とその語りをデータとし、意味内容の類似性により分類を行い、カテゴリを抽出した。カテゴリを[]で記述した。

その結果、住民との交流を通して住民が[人のつながりを保つこと]を重要に捉えていること気づいていた。地域の環境に触れることにより[地域の豊かさに関すること]に気がつき、そのことは[利便性に関すること]と密接に絡んでいることを理解していた。それゆえ住民が自ら[地域を動かそうとすること]を感じ取っていた。地域の[経済基盤に関すること]や観光などの経済効果を見込んでいる[外を意識して取り組んでいること]を見いだした。[健康課題に関すること]に目を向け、[健康課題に関する組織的な取り組み]を捉えることができていた。

公衆衛生看護学実習において地域看護診断の作成を課されており、既存資料の検討や地区踏査を行った。学生は既存資料からはつかみきれない住民の生活や自然環境、産業構造やそれに伴う利便性の問題をとらえつつ、それらは負の側面よりはプラスの効果もあることを自身の地区活動を通して、心に留めていることを再確認できる機会となっていた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 3件)

北宮千秋、多喜代健吾、保健師学生が自治体実習後にとらえた地域イメージの構造化過程での学び、日本公衆衛生学会総会、2018

北宮千秋、地域をとらえる視点を育てるプログラムの評価、日本看護科学学会、2017

北宮千秋、保健師学生がとらえた地域イメージ PAC 分析の過程において、日本公衆衛生学会総会、2016

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：多喜代 健吾

ローマ字氏名：Takidai Kengo

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。